

にしかつら 議会だより

No.129

令和8年8月26日

6月定例会特集 | 補正予算案審議と条例改正のポイントをわかりやすく整理



P3 教育長 教育行政に
かける決意

P4 議論・行政への要望

P5 主な事業



ポイント1

令和7年度
補正予算：第7号



ポイント2

令和8年度
補正予算：第1号



ポイント3

国保税条例改正



町長が示した **3つ** のポイント

1. 上下水道滞納分の不適切な処理に関するお詫び

令和3年度から5年度の上下水道料金滞納事務で不適切な事務処理が判明しました。町長は謝罪するとともに、令和6年度以降は適正に処理しており、管理体制の見直しなど再発防止に取り組む考えを示しました。

2. 安全・安心な暮らしを守るために

物価高や人手不足、自然災害など社会情勢が変化する中、安全・安心に暮らせるまちづくりに向けた取り組みを進めています。

防災体制の強化：倉見山火災を教訓に、防災体制や関係機関との連携を強化し、地域の防災力向上に取り組めます。

旧庁舎跡地：老朽化した旧役場庁舎の解体工事が完了しました。今後は跡地整備を進め、安全・安心なまちづくりにつなげます。

3. 地域を盛り上げる取り組み

三つ峠駅舎でカフェ運営がスタート！

7月から三つ峠駅舎で地域おこし協力隊によるカフェが始まります。地域とともに、町民や観光客に親しまれる町の玄関口づくりを進めます。

「鯉のぼり de ニシカツしない？」の開催

地域おこし協力隊の発案で、桂川公園に約60匹の鯉のぼりを掲揚しました。町内の子どもたちが作った郡内織のうろこ付き鯉のぼりも加わり、多くの皆様でにぎわいました。

広報委員 からの一言

上下水道事務の再発防止や防災対策など、暮らしに直結する課題への取り組みが示されました。

議会としても、今後の進捗をしっかりと確認していきます。

新教育長就任のご挨拶

高尾貞明 教育長が、これからの西桂町の教育に対する考えを示しました。西桂町の特徴を生かした教育づくりへの方針をご紹介します。



新教育長：教育行政への3つの柱

「一町一校」という西桂町の特徴を最大限に生かし、次の3点を中心に教育環境の充実に努めます。

1. 小中学校連携（9年間を見通した教育）

小学校から中学校までの9年間を見通した切れ目のない教育を進めます。教職員が連携し、子どもたちが「地域みんなに見守られている」と実感できる、安心して学べる環境づくりを目指します。

2. 生涯学習の推進（世代を超えた学びと交流）

豊かな自然や地域の歴史を生かし、文化やスポーツ活動を通じて、子どもから大人まで生涯を通して学ぶ機会を持てるよう取り組んでまいります。

3. 対話に基づく教育行政（現場の声を生かす教育）

学校や地域へ積極的に足を運び、先生方や保護者、地域の皆様の声を丁寧に聞きます。

その声を教育に生かし、子どもたちにとってより良い教育環境づくりを進めます。

教育長よりメッセージ

子どもたちがふるさと西桂町に愛着と誇りを持ち、自らの未来を切り拓いていけるよう、皆様と力を合わせて全力で取り組んでまいります。

広報委員より

教育長は、「地域とともに子どもを育てる」という思いを3つの柱に込めました。

その取り組みが子どもたちの笑顔と、ふるさとへの愛着につながることを期待しています。

委員会で確認した

主 な ポ イ ン ト

委員会では議案を詳しく審査し、行政へ確認したことや、改善を求めた主な内容をまとめました。

6 月定例会



1 リスク管理と再発防止（川濑い車両事故・住民訴訟など）

車両損傷事故：再発防止に向け、安全管理の徹底や専門業者への委託を含めた対策を求めました。また、保険が適用されなかったことを踏まえ、保険加入や運用ルールの見直しを求めました。

住民訴訟費用：訴訟対応に要する費用について、その必要性や積算根拠を確認し、適正な手続きを求めました。執行部は「適正な訴訟対応に必要な費用」と説明しました。

2 子育て支援と行政サービスの適正化

医療費助成システム マイナンバーカードを利用した医療費助成の開始時期について確認しました。執行部は、国の方針に基づき令和9年度までに対応すると説明しました。

子育て祝い金 第4子以降への手厚い支援や、特色ある子育て施策の検討を求めました。執行部は、他自治体を参考に検討を続けると説明しました。

3 公共施設の運営と財政

三ツ峠グリーンセンター 2年連続の赤字を受け、経営改善を強く求めました。レストラン部門を含めた収支分析を行い、施設運営について、あらゆる選択肢を視野に入れた見直しを求めました。

基金の運用 基金を取り崩す際は、利子収入への影響も考え、より効率的な運用を求めました。

4 委員報酬の見直し

非常勤職員の副業・報酬 町職員が各種委員を務めた際の報酬について、他の委員との公平性を踏まえ、条例改正を含めた前向きな見直しを強く求めました。

5 町長の責任（上下水道滞納分の不適切処理）

給与減額条例 町長をはじめ関係職員の責任を踏まえ、処分だけで終わらせることなく、組織全体で再発防止を徹底するよう強く求めました。

令和 7 年度 一般会計補正予算 第7号

主な内容

基金積立金 5,311万円

概要

令和7年度決算見込により、歳入余剰分を公共施設整備基金へ積立て

令和7年度 一般会計最終予算
32億6,328万円

概要

補正予算を反映した令和7年度の最終予算額です。

令和 8 年度 一般会計補正予算 第1号

主な
事業概要

三ツ峠線道路拡幅工事
743万円

概要

下暮地地内の急カーブを解消するため、町道三ツ峠線の道路を拡幅します。

三ツ峠駅舎水飲み場新設工事
287万円

概要

三ツ峠駅舎に飲み場を新設し、駅利用者や観光客の利便性向上を図ります。

DCサーバー購入価格高騰に伴うリース料への予算組替
△843万円

概要

物価高騰を踏まえ、学校サーバーは購入から5年リースへ変更しました。購入費を減額し、リース料へ予算を組み替えます。

都町2号線及び三ツ峠線用地購入
69万円

概要

新ごみ処理場への工事車両が安全に通行できるよう、道路整備に必要な土地を購入します。

国民健康保険税



令和8年度から 「子ども・子育て支援金制度」が始まります

子ども・子育て支援金は、こども未来戦略「加速化プラン」で定められた、児童手当の拡充、妊婦のための支援給付、こども誰でも通園制度などの取組みに使用されます。

令和8年6月 定例会 採決結果

全会一致の議案

議案番号	件名	主な内容	議決結果
議案 第18号	借上車両の損傷に係る損害賠償の額の決定について	川浚いの借上げ車両事故について。保険適用外のため、町が約814万円を弁償する	原案可決
議案 第19号	令和8年度西桂町一般会計補正予算(第1号)	1828万7千円増額、予算総額29億9532万7千円	原案可決
承認 第5号	専決処分事項の報告について(西桂町税条例の一部改正について)	軽自動車税の環境性能割廃止や固定資産税の免税点見直しなど、国の税制改正に準拠した内容	原案承認
承認 第6号	専決処分事項の報告について(西桂町国民健康保険税条例の一部改正について)	子ども・子育て支援金制度の導入に伴う課税の新設など	原案承認
承認 第7号	専決処分事項の報告について(令和7年度西桂町一般会計補正予算(第7号))	2099万2千円増額、予算総額32億6327万8千円	原案承認
承認 第8号	専決処分事項の報告について(令和7年度西桂町介護予防支援事業特別会計補正予算(第1号))	増減なし、予算総額125万2千円	原案承認
議案 第20号	西桂町長の給与の特例に関する条例の制定について	上下水道使用料の不適切処理について、町長の管理監督責任を明らかにするため、7月分の給与を10%減額するもの。	原案可決
議案 第21号	西桂町印鑑条例の一部改正について	特定在留カード等での印鑑登録証明書交付に対応	原案可決
議案 第22号	西桂町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について	部活動指導員の報酬等の根拠明確化および給与表の改定	原案可決
議案 第23号	令和8年度西桂町介護保険特別会計補正予算(第1号)	85万8千円増額、予算総額4億2432万5千円	原案可決
同意 第3号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	牛田和夫氏	原案同意
同意 第4号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	川村明弘氏	原案同意
同意 第5号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	梶原健造氏	原案同意
同意 第6号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	勝俣美紀男氏	原案同意
同意 第7号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	井上秀樹氏	原案同意
同意 第8号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	重田玄一氏	原案同意
同意 第9号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	牛田浩史氏	原案同意
同意 第10号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	箭竹義信氏	原案同意
同意 第11号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	古屋将直氏	原案同意
同意 第12号	西桂町農業委員会委員の任命につき同意を求めるについて	仲野高之氏	原案同意

6月定例会 人事案件



選挙管理委員会

全 員 賛 成
で 可 決

公正・公平な選挙を行うため、選挙の管理・執行を担います。

選挙管理委員4人と補充員4人を選出しました。

任期は令和8年6月28日から令和12年6月27日までです。



武藤 信夫(倉見)



權守 強志(柿園)



重田 玄一(本町)



小林 利男(上町)

補充員当選者

川村 長久(倉見) 藤江 栄一(柿園) 梅原 正弘(本町) 岩田 哲也(上町)

西桂町農業委員会委員

農地の適正な利用や地域農業の発展に向けた役割を担います。

任期は、令和8年7月20日から令和11年7月19日までです。

●牛田 和夫 氏

●川村 明弘 氏

●梶原 健造 氏

●勝俣美紀男 氏

●井上 秀樹 氏

●重田 玄一 氏

●牛田 浩史 氏

●箭竹 義信 氏

●古屋 将直 氏

●仲野 高之 氏



令和8年5月22日 渡辺佳菜 議員

誰もが参加できる議会が、より良いまちをつくる

5月22日に開催された町村議会議員研修会に参加し、「なり手不足論と議会」をテーマに学んでまいりました。

近年、「なり手不足」という言葉を耳にする機会が増えていますが、今回の研修では、議員のなり手不足は議会だけの課題ではなく、人口減少や地域社会の変化に伴い、消防団やPTA、自治会など、地域を支えるさまざまな担い手が減少していることと深く関わっていることを学びました。また、議員定数や議員報酬についても、単純に減らせばよいというものではなく、町民の皆様の声を町政へ届けるためには、議会が役割を十分に果たせる環境を整えていくことが大切である、と改めて考えさせられました。私自身、子育て中の30代議員として、子育てや教育、防災、福祉など、日々の暮らしの中で感じる課題や気づきを大切にしながら活動しております。同じ子育て世代だからこそ気づけること、女性だからこそ感じられることも、一つの視点として町政に届けることが私の役割の一つであると考えています。また、議会でどのような議論が行われ、議員がどのような活動をしているのかを、町民の皆様により身近に感じていただけるよう、分かりやすい情報発信にも努めていきたいと感じました。

今回の研修を通して、議会は町民の皆様の声を町政へつなぐ大切な場であることを改めて実感いたしました。これからも一人ひとりのお声に丁寧に耳を傾け、学び続ける姿勢を忘れず、研修で得た知識を議会活動に生かしながら、町民の皆様に信頼していただける身近に感じていただける議員を目指して、一つひとつ誠実に取り組んでまいります。

令和8年7月10日 奥脇友賢 議員

「伝えた」ではなく「伝わる」議会だよりへ

7月10日に開催された町村議会広報研修会に参加し、「広報マインドと伝わる議会広報づくり」について学びました。

講師が繰り返し語っていたのは、「誰に、何を、どのように伝え、その結果としてどうなってもらいたいのか」という広報の基本姿勢です。議会だよりも、会議の結果を伝えるだけでは役割を果たせません。議会を身近に感じ、町政への関心や理解を深めていただくことが大切です。

研修では、読みやすさは文字数ではなく、情報を整理し、伝わる工夫を重ねることで生まれると学びました。編集委員会では、この考え方を生かしながら最新号の編集を進めています。ペー



ジをめくるたびに新しい発見があり、「議会って意外と面白い」「少し身近になった」と感じていただける一冊を目指しています。そんな声が少しずつ増えていくことを願いながら、1ページ1ページを丁寧に編集しています。

令和8年度 全国町村議会議長・副議長研修会

令和8年5月26日

藤江雅江 議長

令和8年度全国町村議会議長・副議長研修会が2日間にわたり、東京国際フォーラムホールAにおいて開催されました。私は、今回で3度目の参加となりましたが、参加を重ねる中で感じたことは、本研修の重要性と会場の熱気を強く感じ取ることができました。

特に、今回は女性議員の参加が大幅多くなったことは、女性が政治に参加していくこととの女性の政治参加に対する社会的理解が高まりつつあると考えられます。

講演と内容について、以下に記します。まずは、「人口減少社会における外国人材の確保・育成の実践」については、地球規模で、多様化・多文化社会へと変化してきた環境があり、人口減少が今始まったわけではなく、減少していった経緯の中でどう施策を打ってきたか、何をしてきたのか、何もしてこなかったのか、そして人手不足を外国人に頼ってしまうということを日本人として、どう考えているのか。地球規模として考え、多文化社会の共創が必要ではないか、というお話でした。人口減少への特効薬は「これだ!!」というものがなかなか見当たらない訳ですが、今後も考えていかなければなりません。大変考えさせられた貴重な時間でした。

次は、「地方創生の行き先―地域未来戦略とともに―」についてです。地方創生の現状は、①人口減少と東京一極化に歯止めをかけること。②地域の魅力を生かした産業の活性化をすること。③雇用を創出していくこと。このことについて、多岐にわたり地方が自立して継続的に発展していく社会を目指していくのですが、これらの問題・課題に向かってどうアクションをとっていくかは大変難しいと感じました。時はまさにアナログからデジタルへ。生成AIのメリット・デメリットについても、お話しされています。①自分にとって「学びの深化に資するか」。②慣れてしまうと「思考停止」。③「地頭で考える力」が付かない。④内省・自己成長を目的に「確認は最低限度」。⑤地頭で調べ考えた後の復習、探求には「良き伴走者」。⑥「自己の成長へのプラス」を自己判断する。すなわち結論は、「人材育成をしっかりやること!!」全くの同感であります。今回の研修で学んだことを、議会活動に活かしてまいります。

安留重雄 副議長

「令和8年度町村議会議長・副議長研修会」が令和8年5月26日に東京国際フォーラムにて全国より2,000人以上参加し開催されました。本研修会では、人口減少や少子高齢化が進行する中での地方創生の在り方について、多角的な視点から学ぶことができました。

第1講演では、地方創生の先行事例をもとに、地域資源を活かしたまちづくりや、地域住民が主体となる持続可能な地域経営の重要性について理解を深めました。地方創生を進めるためには、行政だけではなく、地域住民、民間企業、各種団体が連携し、地域の魅力を高めていくことが必要であると感じました。

また、第2講演では、人口減少社会における外国人材の確保と育成について学び、多文化共生の視点を持った地域づくりの重要性を認識いたしました。第3・4講演では、男女共同参画や女性議員の活躍推進について具体的な取り組み事例が紹介され、多様な意見を政策に反映させることが地域活性化につながることを再確認いたしました。今回の研修会を通じ、地方創生には多様な人材の参画と地域の特色を活かした取り組みが不可欠であると強く感じました。今後の議会活動においても、住民目線を大切にしながら、持続可能で活力ある地域づくりに努めてまいります。

一般質問

持続可能な行政運営と組織体制について



奥脇 友賢 議員

「担当者が知っている行政」から
「組織が知っている行政」へ。
それが持続可能な行政運営の
第一歩です。

問

町が「なぜその判断をしたのか」を、将来にわたって住民へ説明できる仕組みは十分に機能しているのか伺いました。

答

決裁手続きや情報共有など一定の仕組みは整備しているものの、現状の体制が十分に機能しているとは言い切れない。

担当者任せではなく、組織全体で知識や経験、判断根拠を共有・継承することが重要である。

重要な事業や施策については、経緯や根拠資料を組織として共有し、引継ぎや文書管理、自治体 DX も活用しながら、継続性と説明責任を支える組織づくりを進めていく。

要望

知識や経験、判断根拠を組織全体で共有・継承し、内部統制を継続的に改善することで、住民から信頼される持続可能な行政運営の実現を要望しました。

自助・共助・公助の つながりは？



渡辺 正芳 議員

問

災害時に対する実動訓練、および現状の職員体制での事業継続計画の実施をどのようにお考えでしょうか？

答

当町においては、主要6要素については計画上は整備されている。

災害時には優先業務を24時間以内、3日以内、1週間以内、など時間ごとに確認、整理する。

マンパワー不足に対しては、消防団、防災リーダー、社会福祉協議会、民間事業者、県、国、近隣自治体との連携が極めて重要である。

ゆえに、計画を立てて終わりではなく実働に対して、必要な見直しを重ねていく。限られた職員体制の中でも、町民の生命、身体、及び生活を守るため、実効性のある事業継続体制の強化に取り組んでいく。

要望

被災経験の少ない当町においては大丈夫だという正常性バイアスが働きがちになるので、早急なる体制の強化を切望する。



さらに親しまれる 議会だよりを目指して

研修

議会広報編集委員会では、5月11日に山中湖村議会を訪れ、令和7年度山梨県広報コンクール議会広報紙部門町村の部 最優秀賞を受賞した議会だよりづくりについて学ぶことができました。

山中湖村議会が大切にしていたのは、「**まず手に取ってもらうこと、そして最後まで読んでもらうこと**」でした。文字数を抑え、写真や図表を効果的に活用し、専門用語をできるだけ使わないなど、誰にでも伝わる紙面づくりに工夫を重ねていました。

また、「**村民の声**」や中学生議会など、**住民参加型の企画**を積極的に取り入れ、議会をより身近に感じてもらう取り組みも印象的でした。さらに、**QRコードやアプリを活用した情報発信**など、紙とデジタル、それぞれの良さを生かした工夫も進められていました。

今回の視察を通じて、議会だよりは議会の活動を伝えるだけでなく、議会と町民の皆さんを結ぶ大切な役割を担っていることを改めて実感しました。

これからも西桂町議会だよりの強みである、議論の経過や背景まで伝える丁寧な情報発信を大切にしながら、親しみやすく、分かりやすく、思わず手に取りたくなる議会だよりを目指してまいります。